

境内一斉清掃の実施

去る7月31日(日)午前7時半より恒例のお盆前、境内一斉清掃を実施しました。当日は猛暑の中、21名のご参加を頂き、おかげさまで普段はなかなか行き届かない場所を、お盆前に掃除することが出来ました。ご参加下さった皆様、有難うございました。

清掃後は参加者全員で8月4日が祥月命日の秋月院殿塔と無縫塔にお参り



をしました。ご参加頂いた方のお名前は次の通りです。

- 【花園会】三崎屋雅之、新居邦俊、中井一誠、天野秀俊、高見政己・潤一郎、佐野浩二、松本幸一・真理子・泰地、関博之、島田晃男、中井雄三、山下正城、相良須美代・朱美、渡辺浩、渋谷幸一、中井愛雄、山田千枝子

【坐禅会】秋山明弘

(順不同、敬称略)

# 實相寺花園會報

令和四年 九月一日発行  
 発行所 臨濟宗妙心寺派 陽明山 實相寺 實相寺花園会  
 〒761-0450 高松市三谷町 1811番地1  
 TEL087-889-3838  
 編集発行人 山本文匡  
<https://www.jissouji.net>

## 第161号

### お寺の掲示板

朝露は  
 キエのこりても  
 ありぬべし

ありぬべし

誰かこの世に

残りはつべし

「水がみ」

「はかない朝露であっても、わずかに消え残るのはあるだろう。しかし人にとっては誰が一人として生き残る者がいるものか、ないのである。」

『道歌教訓和歌辞典』

九月九日は重陽の節句です。中国では奇数を陽数、偶数を陰数としますが、九月九日は最も大きい陽数が重なることから重陽とします。

重陽には高いところに登って宴を開いたり、無病息災を願って菊花の朝露綿に染み込ませて飲む、という様な風習がありました。

「輪廻から解脱」するということ(一)  
元首相の銃撃以来、宗教団体と政治家の関わりが世間を騒がせています。ともすると宗教は胡散臭いという印象さえ受けませんが、全ての宗教が危ない訳ではありません。ただ、最近は危険な宗教を見抜く力も必要なのでしょう。よく「信じる者は救われる」とも言われませんが、一般に宗教は信じることを求めます。何を信じるのかと問えば、最終的には死後の世界観だと言えます。つまりユダヤ教・キリスト教・イスラム教を総称してアブラハム宗教と言いますが、これらの信者は最後の審判の後、天国に生まれ変わることを信じて神様と契約するのです。

また仏教以前からインドで信仰されるヒンズー教(バラモン教)は輪廻転

生を説きます。信者は来世での高い身分や天界への転生を信じて、現世では教えに従って生きるのです。

では仏教はどうでしょう？浄土教では極楽往生を説きますが、元々お釈迦様がお説きになったのは、もう二度と生まれ変わらない為の方法です。

ですからお釈迦様は亡くなる時、「自らを抛り所とし、法を抛り所とせよ」と仰いました。法とはこの世界の真理、原理原則という意味です。「私の説いた教えを抛り所とせよ」と仰った訳ではありません。また『法句経』には「おのれこそ おのれによるべ

おのれを措きて 誰によるべぞ  
よくとのえし おのれにこそ  
まことえがたき よるべをぞ獲ん」という教えもあります。

つまり多くの宗教が現実には実証不可能な死後の世界観を鵜呑みにして信じることを求めるのに対し、お釈迦様の仏教は「信じなさい」とは言わないのです。その代わり、利己的で偏った視点では無く、公平で客観的な視点から、落ちついた心による冷静な判断を

自分自身でしなさい、と説くのです。禅でも「大疑無くんば大悟無し」という言葉がありますが、古来、信じる前に、先ずは疑うことが大切だと説かれます。疑って、疑って、徹底的に自分自身で冷暖自知せよと言うのです。

ただキリスト教系に限らず、仏教系にもカルトと言われる宗教団体はありますから、仏教だから安心ということではありません。個人的には、「この教えさえ信じれば必ず幸福になれる」

とか「この教えを疑ってはバチが当たる」という様なことを説く宗教はあまり信用できないな、と思います。

さてここまで書いてきて、表題のテーマには殆ど触れられていないことに気づきました。どうやら今月号だけでは紙幅が足りないようですので、「輪廻から解脱する」ということについては、来月号で詳しく述べさせて頂きたいと思います。

ただ一つ申し上げておきますと、輪廻転生にせよ、天国にせよ、この世以外の場所に自分の抛り所を設定するというのは、結局のところ、この世での自分は、本当の自分では無いという様な考え方に陥り易いと感じるのです。特に最近の青少年向けアニメはそういう傾向が強いと感じています。